

平成13年（2001年）3月

あしたば種

(*Angelica keiskei* (Miq.) Koidz.)

本審査基準は重要な形質を定める最新の告示を反映しておりません。

出願等にあたっては、最新の重要な形質をご確認ください。（以下 HP の植物区分ごとの特性表参照。

→https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hinshu/info/sinsa_kijun_jp.html）

なお、それぞれの重要な形質に対する定義等は変更されております。

3.特性審査基準(案)

(1) 特性審査基準

※は特性の記述上不可欠と考えられる形質

重要な 形 質	形 質	定 義	調査 方法	状態又は 区分	階級	標準品種名	備 考
草 姿	※ 1. 草 姿	一年目の生育最盛期	観察	立性 中間 開張	1 2 3	八丈S-2系統 大島M-2系統 三浦系統	
草 丈	※ 2. 草 丈	一年目の生育最盛期の 地際から葉の最長先端 までの長さ	測定	低 中 高	3 5 7	三浦系統 大島M-1系統 八丈E系統	葉を伸ばして 測る
茎の形 状	※ 3. 茎の太さ	一年目の地際の太さ	測定	細 中 太	3 5 7	市販T系統 八丈G系統 八丈B系統	
葉の形 状	※ 4. 葉の色	一年目の生育最盛期の 最大葉の色	観察	淡緑 緑 濃緑	3 5 7	市販T系統 市販M系統 三浦系統	
	5. 葉の光沢	一年目の生育最盛期の 最大葉表面の光沢	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈G系統	
	※ 6. 葉 数	一年目の生育最盛期の 完全展開成葉数	測定	少 中 多	3 5 7	大島M-1系統 八丈G系統 八丈B系統	
	7. 葉面の波打ち	一年目の生育最盛期 の最大葉全体の葉面の 波打ちの程度	観察	無 小 中 大	1 3 5 7	八丈G系統	
	8. 葉縁のきょ歯 の程度	一年目の生育最盛期の 最大葉の頂小葉のきょ 歯の粗密	観察	粗 中 密	3 5 7	八丈G系統	
	※ 9. 葉柄の太さ	一年目の生育最盛期の 最大葉の葉柄の中間部 の太さ	測定 図 1	細 中 太	3 5 7	三浦系統 大島M-1系統	
	※ 10. 葉柄の長さ	一年目の生育最盛期の 最大葉の葉柄の長さ	測定 図 1	短 中 長	3 5 7	三浦系統 八丈G系統 八丈E系統	
	11. 葉柄下部の色	一年目の生育最盛期の 最大葉の葉柄下部の色	観察	緑 淡紫 紫 濃紫	1 2 3 4	八丈S-2系統 大島M-1系統 市販M系統 三浦系統	
	※ 12. 葉柄下部の 色 (幼苗期)	本葉 2 枚頃の最大葉の 葉柄下部の色	観察 写真 4 を 参考	緑 淡紫 紫 濃紫	1 2 3 4	八丈A系統 大島U系統 三浦系統	気温が高いと 緑色になり易 いので、夜温 は 10℃以下 で管理する。

重要な 形 質	形 質	定 義	調査 方法	状 態 又 は 区 分	階級	標準品種名	備 考
花 の 形 状	13. 複散形花序 の大きさ	開花盛期の頂花におけ る複散形花序の直径	観察 図 2	小 中 大	3 5 7	三浦系統 八丈G系統 八丈B系統	
	14. 散形花の数	散形花の数	測定 図 2	少 中 多	3 5 7	八丈G系統 八丈B系統	
	15. 小花の着色の 有無	開花盛期の小花の着色 の有無	観察	無 有	1 9	八丈G系統	
	16. 側花の多少	開花盛期の側花の多少	測定 図 2	少 中 多	3 5 7	八丈G系統	
	17. 花茎の長さ	開花盛期の花茎の長さ	測定 図 2	短 中 長	3 5 7	三浦系統 八丈G系統 八丈B系統	地際から頂花 の花序基部ま での長さ
	18. 花柄の長さ	開花盛期の最上葉から 複散形花序基部までの 長さ	測定 図 2	短 中 長	3 5 7	三浦系統 八丈G系統	
種 子 の 形状	19. 種子の大き さ	採種時のからつき種子 の大きさ	観察	小 中 大	3 5 7	大島M-2系統 八丈B系統	
抽 だ い の 早 晩 性	※ 20. 抽だい性	一年株における開花の 有無	観察	無 少 中 多	1 3 5 7	三浦系統 大島系統 八丈K系統 八丈A系統	
環 境 耐 性	21. 耐 湿 性	通常栽培条件下におけ る耐湿性の強弱	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈G系統	
	22. 耐 干 性	通常栽培条件下におけ る耐干性の強弱	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈G系統	
	※ 23. 耐 寒 性	通常栽培条件下におけ る耐寒性の強弱	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈S-2系統 市販T系統 三浦系統	
	24. 耐 暑 性	通常栽培条件下におけ る耐暑性の強弱	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈G系統	
病 害 抵 抗 性 及 び 虫 害 抵抗性	※ 25. 病害抵抗性	通常栽培条件下におけ る病害抵抗性の強弱	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈G系統	
	※ 26. 虫害抵抗性	通常栽培条件下におけ る虫害抵抗性の強弱	観察	弱 中 強	3 5 7	八丈G系統	

(2) 参考図

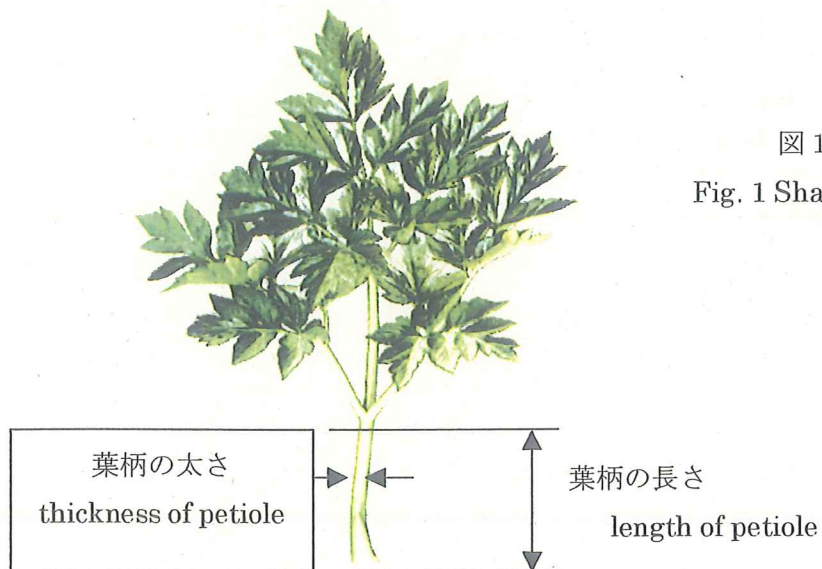


図1 複葉の形状

Fig. 1 Shape of compound leaves

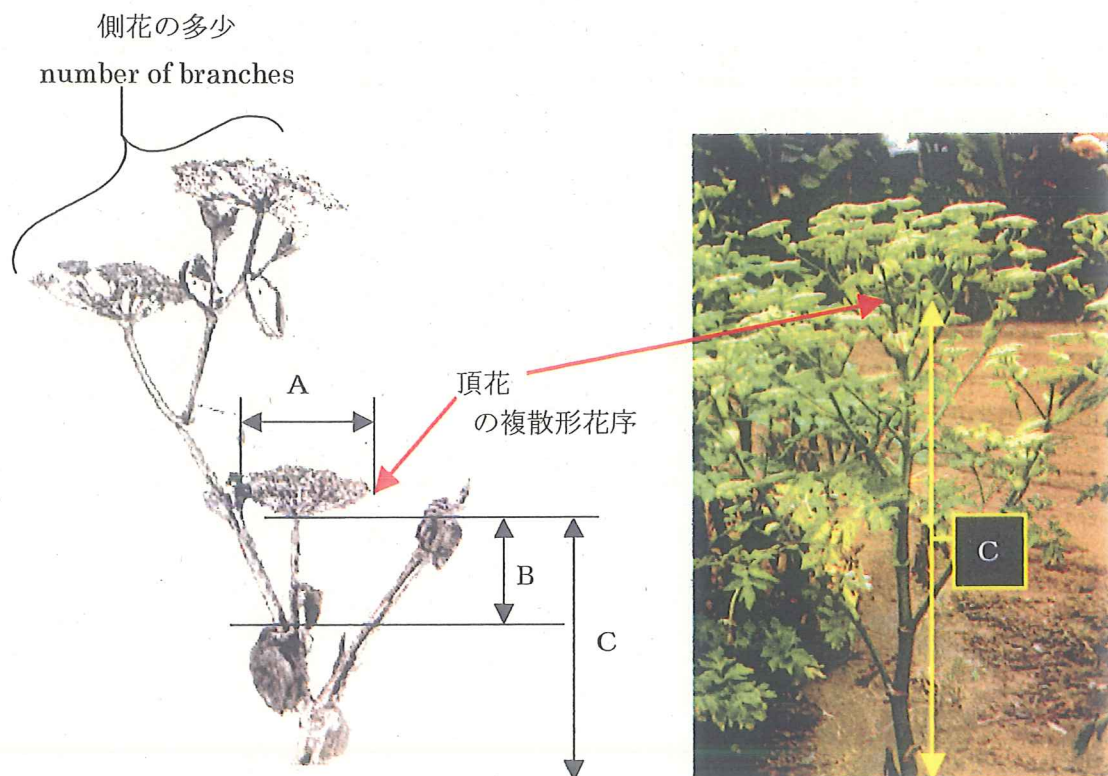


図2 複散形花序の大きさなど

A: 複散形花序の大きさ size of compound umbel

Fig. 2 Size of compound umbel, etc. B: 花柄の長さ length of peduncle

C: 花茎の長さ length of stalk

(3) 英語 翻 訳

Table of Characteristics

Characteristics	States	Note	Exsample varieties
*1. Plant : habit	erect medium spread	1 2 3	hachijyou S-2 line ohsima M-2 line miura line
*2. Plant : height	low medium high	3 5 7	miura line ohsima M-1 line hachijyou E line
*3. Stem : thickness	thin medium thick	3 5 7	T line hachijyou G line hachijyou B line
*4. Leaf : color	light green green deep green	3 5 7	T line M line miura line
5. Leaf : glossiness	weak medium strong	3 5 7	hachijyou G line
*6. Leaf : nummber of compound leaves	few medium many	3 5 7	ohsima M-1 line hachijyou G line hachijyou B line
7. Leaf : wave of leaf surface	absent small medium large	1 3 5 7	hachijyou G line
8. Leaf : density of serration	coarse medium fine	3 5 7	hachijyou G line
*9. Leaf : thickness of petiole (Fig. 1)	thin medium thick	3 5 7	miura line ohsima M-1 line
*10. Leaf : lenght of petiole (Fig. 1)	short medium long	3 5 7	miura line hachijyou G line hachijyou E line
*11. Leaf : color on base of petiole lower part	green light purple purple deep purple	1 2 3 4	hachijyou S-2 line ohsima M-1 line M line miura line
*12 Leaf : color on base of petiole lower part (seedling stage)	green light purple purple deep purple	1 2 3 4	hachijyou A line ohsima U line miura line

Table of Characteristics

Characteristics	States	Note	Exsample varieties
13. Flower : size of compound umbel (Fig.2)	small	3	miura line
	medium	5	hachijyou G line
	large	7	hachijyou B line
14. Flower : number of umbel (Fig. 2)	few	3	
	medium	5	hachijyou G line
	many	7	hachijyou B line
15. Flower : color	absent	1	
	present	9	hachijyou G line
16. Flower : number of branches (Fig. 2)	few	3	
	medium	5	
	many	7	hachijyou G line
17. Flower : length of stalk (Fig. 2)	short	3	miura line
	medium	5	hachijyou G line
	long	7	hachijyou B line
18. Flower : length of peduncle (Fig. 2)	short	3	miura line
	medium	5	hachijyou G line
	large	7	
19. Fruit : size of seed	small	3	ohsima M-2 line
	medium	5	hachijyou B line
	large	7	
*20. Earliness : Flowering habit	absent	1	miura line
	few	3	ohsima line
	mediumu	5	hachijyou K line
	many	9	hachijyou A line
21. Environmental tolerance : wet tolerance	weak	3	
	medium	5	
	strong	7	hachijyou G line
22. Environmental tolerrrance : drought tolerance	weak	3	
	medium	5	
	strong	7	hachijyou G line
*23. Environmental tolerance : cold tolerance	weak	3	hachijyou S-2 line
	medium	5	T line
	strong	7	miura line
24. Environmental tolerance : heat tolerance	weak	3	
	medium	5	
	strong	7	hachijyou G line
*25. Resistance : disease	weak	3	
	medium	5	
	strong	7	hachijyou G line
*26. Resistance : pest	weak	3	
	medium	5	
	strong	7	hachijyou G line

4. 特性検定のための栽培試験方法

「あしたば」は直播、移植ともに栽培が可能である。しかし、「あしたば」の種子は、一般に発芽勢や貯蔵性が低いといわれている。このため、特性検定に当たっては、採種後3ヶ月以内の種子を用い、苗を育苗してから本圃で栽培試験を行うとよい。

また、実際栽培では茎葉の収量性が重要である。しかし、適時に収穫を行っていくと、供試個体個々の地上部および地下部栄養状態の差異を大きくすることや抽だい・開花までの期間が遅れる（検定期間が3年前後になってしまう）。このため、検定期間中の収穫はできるだけ行わず、栽培圃場の植物体を非破壊的測定や観察によって検定を進めるようにする。以下に具体的な試験方法を述べる。

1) 作型・耕種基準

(1) 作 型 露地普通栽培とする。

(2) 耕種基準

イ. 供試種子

播種しない時は、低温（2～5℃程度）・乾燥条件で貯蔵するが、採種から半年以上経過した種子は使用しない。また、種子の精選度にもよるが、なかには無胚種子や未熟胚種子も含まれているので、それらは除外する。

ロ. 播種期

播種は11月。ただし、冬季はハウス内で育苗管理する。

ハ. 種子の予措

採種状況によって、種子休眠を生じている種子もあるため、ジベレリン50ppm溶液に24時間浸漬処理を行う。

ニ. 播種（育苗）方法

プラスチック製のセルトレイ（128穴）に1粒ずつ播種し、本葉2葉期まで育苗する。定植は3月下旬に行うが、寒冷地や本圃に定植できない厳しい環境の場合、2葉期以降は、9cm径のポリポットに鉢上げし、4月下旬から5月上旬まで育苗してもよい。

ホ. 定植方法

セル苗では本葉2枚展開期（ポット苗では3～4枚期）に定植する。早期に特性検定を終了させるためには、広い株間で定植する。植え付けは、やや高畦とした幅1.3mの平床を作り、条間25cm、株間25cmの5条植えとする。定植期やその後に寒さを受ける場合には、べたがけやトンネルにより保温する。

ヘ. 施 肥

堆肥を定植2週間前までに10a当たり2t程度施用する。

元肥はN・P・Kとも10a当たり成分量で15kg程度施用する。

追肥は生育状況を見て適宜行うが、目安としては春（4～5月）と秋（9～10月）にN・K化成を10a当たり成分量で3kg程度施用する。

ト. 管 理

下位葉の枯葉や黄化は適宜取り除く。除草も適宜行う。

チ. 病虫害防除

定植から生育初期まではネキリムシ類、生育中期以降はアゲハ類、また、全期間ではハダニ類やアブラムシ類の防除を行う

2) 検定のために留意すべき事項

イ. 幼苗検定：育苗時の葉柄下部の色（形質No. 12）は系統間差異がわかりやすいので、時期を逃さずに行う。

ロ. 草姿、草丈、茎および葉の形状：生育最盛期に調査を行う。生育最盛期とは、定植後7ヶ月（10月下旬）頃をいう。

ハ. 抽だい性：1年目から生じるものと2年目以降に生じる個体がある。

ニ. 耐寒性： 冬季中の枯死率や新葉の生育度合いを適宜観察する（写真7を参考）。

3) 供試個体数

1区30株、2反復